

## [報告] 第24回歴史地震研究会参加記

首都大学東京大学院都市環境科学研究科\* 村岸 純

### Impression Report of 24th General Meeting

Jun MURAGISHI

Tokyo Metropolitan University, 1-1 Minamiosawa, Hachioji-shi, Tokyo, 192-0397 Japan

#### §1. はじめに

第24回歴史地震研究会は、平成19年9月15日から17日にかけて静岡県下田市において開催された。15日午前・午後、16日午前に研究発表会、16日午後、17日野外見学会の日程で行われた。

私にとっては昨年に引き続き、2度目の参加となった。3日間全日程参加し、大変貴重な体験をさせていただいた。多くの人に活動を理解していただきたいと思い、参加者以外の方にも紹介する意味でもここに報告をする。

#### §2. 研究発表会

2日間にわたり研究発表が行われた。理学、地震学、地形学、地質学、歴史学、文学等多岐に亘る学際的な発表であった。これがこの会の特徴であろう。



写真1 研究発表会会場の様子

白熱した議論がかわされ、知識を深めることができた。多方面にわたる方法で、歴史時代に発生した地震の地震像や被害を復元するという共通の目標にむけて、多くの発表がなされていた。私は元禄関東地震の研究をしているが、過去に発生した地震は他に

もたくさんある。多くの人が色々な地震の研究を行っているので、他の人の発表を聴くことで、歴史地震の知識を得ることができるのだと感じた。だからこそ、議論が白熱するのであろう。

#### §3. 公開講演会

研究は研究者たちだけが、研究成果を共有しているだけでは、意味がないだろう。特に、地震は我々の生活に直接影響を与えるので、社会的にも注目されている。

そのような意味でも公開講演会という形で、広く市民の方々に地震について伝えることが必要不可欠だろう。一般の人にも知って欲しいというのが、この講演会の趣旨であると感じた。

公開講演会は、下田市市民文化会館で行われた。プログラムは、佐々木忠夫氏「下田の歴史と地震津波」、羽鳥徳太郎「伊豆半島沿岸地域における歴史津波の波高分布」、西山昭仁氏「安政東海地震・南海地震の教訓」、都司嘉宣氏「安政東海地震津波(1854)に学ぶ津波の法則と教訓」、公開討論であった。



写真2 公開講演会講演者

\* 〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1

会場には多くの人が訪れていた。参加者は、約380人であったという。関心の高さに驚いた。やはり自分たちが住む街の災害に対しては、特に興味関心を抱くのであろう。

私にとっては初めて聴く内容であったので、新鮮であった。また、会場を見渡すと、メモを取り熱心に聴いている人が多いという印象をうけた。

公開討論も白熱した議論が行われていた。地震津波災害に対する関心の高さが、よくわかった。このような姿から公開講演会の開催の意味があったのではないかと感じた。



写真3 公開講演会会場の様子

#### §4. 野外見学会

3日目に下田ボランティア・ガイド協会の方々の協力を得て、野外見学会が行われた。参加者を5つの班にわけて下田市内を徒歩で見学をした。

巡ったコースを紹介する。伊東園ホテル薬岬を出発して、①波除地蔵尊、②今村伝四郎碑、③波除堤を見学し、この後班に分かれて市内を歩いた。我々4班が見学したコースは、④みなと橋、⑤稲田寺(津波塚、阿弥陀如来像)、⑥海善寺(大目付筒井肥前守政憲宿所)、⑦宝福寺、⑧下田八幡神社(石段3段目津波浸水、下田総鎮守、重要文化財鱧口)、⑨泰平寺(勘定奉行川路左衛門尉聖謨宿所)、⑩本覚寺(津波塚)、⑪了仙寺(本堂柱檣船が衝突、日米和親条約付録の調印場所、今村三代墓)、⑫ペリーロード、⑬長楽寺(参道石段4段目まで津波、日露和親条約締結の場)、⑭下岡連杖の碑、⑮ペリー上陸記念碑、というものだ。

ガイドさんの詳しくわかりやすい解説で、初めて訪れた下田市について理解することができた。地震津波の被害が大きかったこと、防災に力を入れてきたことだけではなく、ペリー上陸等歴史ある街でもあることがわかった。

ガイドさんの知らないことを参加者が話す機会もあ

り、相互理解にもなった。ガイドさんには終始詳しい解説をしていただいた。感謝の意をここに表します。



写真4 ガイド(山口さん)の説明を聴く4班のメンバー

#### §5. おわりに

今回は、半日だがタイムキーパーとして、会の運営にも参加させていただいた。貴重な体験であった。多くの発表を聴講し、私自身今後の研究にも生かしていきたいと感じた。まだまだ勉強不足である。反省すべき点である。研究会の開催に多くの人が必要であったと思う。実りある3日間をありがとうございました。感謝の気持ちで一杯である。

歴史地震研究会、歴史地震研究が、今後より発展していくことを心から願っている。また、その力になりたいと強く思う。